

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・保育所等訪問支援 スマイル今里店		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日	～	2026年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名(16家庭)	(回答者数) 16家庭
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日	～	2026年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○訪問先施設評価実施期間	2025年 12月 1日	～	2026年 1月 15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	16園	(回答者数) 12園
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問時の状況を踏まえた、具体的に分かりやすい助言・説明ができています	・実際の保育場を視察した上で、具体例を交えながら助言を行い、園や保護者様が日常保育の中で取り入れやすい説明を心がけている。また訪問時だけでなく、電話等による相談にも丁寧に対応している。	・助言内容を簡潔に整理した共有資料の作成や、訪問後の振り返りの機会を設けることで、支援内容の定着と理解を深める。
2	専門的知識に基づいた支援と、園・家庭との連携体制が構築されていること	・お子様の行動の背景や特性を専門的視点から整理し、園や保護者様に分かりやすく伝えることで、支援の方向性を共有している。	・支援のねらいや専門的視点について、説明の機会や共有方法を工夫し、より理解を深めてもらえるよう取り組む。
3	継続的な訪問支援により、お子様の成長を多面的に捉えられていること	・園と事業所それぞれの環境での様子を共有し、異なる場面での姿を踏まえた支援を行っている。	・小学校就学等の将来を見据え、段階的な支援の見通しを園・家庭と共有しながら、継続的な連携を強化していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	課題の「解消」を実感しにくいケースがあること	・環境の違いにより、園と事業所で課題の現れ方が異なり、短期間での変化が見えにくい場合がある。 ・職員間の力量差により訪問支援先への助言や説明が十分に行えていない場合がある。	・課題解消だけでなく「方向性の共有」や「段階的な変化」を重視した支援であることを、事前に丁寧に説明する。 ・職員研修や事例共有を通して、支援内容や助言の質の統一を図るなど、事業所全体での支援力の向上に取り組んでいく。
2	支援内容や専門性が十分に伝わりきらない場合があること	・訪問回数や時間に限りがあり、支援の意図や背景まで説明しきれない場面がある。	・支援の目的や大切にしている視点を、簡潔に言語化し、訪問後の共有や説明の機会を充実させる。
3	教具・教材や体制等が保護者様に見えにくい点があること	・訪問支援の特性上、使用している教具や職員体制が直接見えにくい。	・使用している教具・教材や支援体制について、支援内容と関連付けて具体的に説明し、安心感につなげる。